

## 滝上3酪農場における土壌のpH、EC、 およびCa、P、Mg、K、Na含量の頻度分布(予報)

篠原 功・小田桐健・水野宣弥・栗栖 博\*

駿岡薫子\*・どすいかグループ\*

(\*北海道文理科短期大学・酪農学園大学)

乳牛の糞尿スラーリ環元肥培かんがいシステム確立に関する研究の一環として滝上町内の3戸の酪農場の施肥後・初夏の耕地草地の表層土壌(0~10cm)の277点およびその下層土壌276点を採取して化学分析を行なった。

結果、表層土壌の要素等の分析値・頻度分布<目標<%は表1に示した。そのなかで、低pH土壌の多いのは夏季土壌の特徴とも言えるが、それにしても全般に低pH土壌の多いことがうかがえる。EC(電気伝導度)は全体に低い一部極めて高いところがある。交換性石灰(CaO)含量とトルオーグ磷酸(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)含量は一般的な頻度分布を示しているが、交換性苦土(MgO)含量と交換性加里(K<sub>2</sub>O)含量は低いものが多かった。このほか、上層土壌のpHと交換性石灰(CaO)含量の間に正の強い関連が認められた。

表1 滝上土壌の化学分析結果

要素等(改良目標)最低~最高	<	目 標	<
n=277	%	%	%
pH (6.0~6.5/H <sub>2</sub> O) 4.63~7.25	72	19	9
pH (5.5~6.0/KCl) 3.73~6.65	90	6	4
EC (0.2~0.5 mS) 0.02~0.92	77	15	8
CaO (200~300 mg) 12~837	31	34	34
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (10~20 mg) 1~113	10	29	61
MgO (25~35 mg) 6~80	56	31	13
K <sub>2</sub> O (20~40 mg) 1~124	46	19	25
Na <sub>2</sub> O (4~10 mg) 0~110	88	10	2

これらのことから、今後の土壌管理に当たっては各圃場土壌の要素等のレベルに合わせたスラーリ環元が望まれる。

なお、詳細は次報で下層土壌のデータと合わせて報告する。